

国際交流基金助成事業報告書

薬学部 2年次生 田口真希

1. はじめに

この度、国際交流基金の助成を受けて、平成28年2月27日から3月28日の1ヶ月間、カナダのバンクーバーを訪問致しましたので、報告いたします。滞在中は、ホームステイをしながら語学学校 International Language Schools of Canada に通い、英語のスピーキング・リスニングとコミュニケーションスキル向上に取り組みました。また、語学学校の放課後は附属専門学校の Greystone College に通いました。

2. 語学学校

語学学校では月曜日から木曜日が9:00~16:00、金曜日が9:00~12:00まで授業がありました。学校のクラスは10レベルに分かれており、入学初日にはクラス分けテストが行われました。この語学学校は、授業がすべて選択制でしたので、授業ごとでクラスメイトが異なりました。私は、English Communication と Conversation と Listening の授業を選択しました。一クラス8~15名ほどの少人数制で、クラスメイトの国籍は日本、韓国、台湾、メキシコ、アメリカ、中国、スイス、コロンビア、サウジアラビア、ブラジル、トルコなどでした。

午前中の授業は Communication の授業では文法、語彙、発音、リスニング、ライティング、リーディングもカバーしつつ、主にスピーキングの練習をするクラスでした。入学したばかりの時は、授業に慣れず英語を聞き取ることで精一杯でしたが、クラスメイトはとても積極的でわからないことがあればすぐに質問しており、私も積極的に授業に参加しなければ、と刺激を受けながら少しずつ授業に慣れていきました。授業では二人ペアになって先生が用意したトピックについて意見を言い合う練習が多かったです。トピックは、趣味の話、映画、恋愛、スポーツ、自分の国について、環境問題、人権問題など様々なことについて意見交換しました。先生は、私たちが話している内容を歩き回りながら聞き、英語の文法が違えばすぐに正しい英語に言いなおしてくれたりしました。また、私が滞在していた3月は St Patrick's Day や Easter があったので、そのことについても学びました。

午前中のクラスでは宿題もあり、時にはプレゼンテーションの課題がありました。その時の条件は「日本人以外の25人以上にインタビューをすること」でした。私にとってクラスメイト以外の人に話しかけることはとても緊張しましたが、自分の語学力も磨くためになるべくいろいろな国籍の人に話しかけました。私は「大学生活」に焦点を当て、10問の質問を考えました。実際に、韓国、台湾、トルコ、ブラジル、

コロンビア、メキシコ、フランス、アメリカの学生にインタビューし、日本との大学生活の違いについて知ることができました。

午後のクラスは2コマあり、Conversation と Listening のクラスでした。

Conversation は実用的なフレーズを学びそのフレーズを使ってグループで会話をする授業でした。また、単語と単語が繋がったときにどのように発音するか、についても学びました。

Listening のクラスでは、映画を見たり、音楽を聴いたり、テキストを使った授業でした。映画はよいリスニングの教材であることを先生に教えてもらい、日本に帰っても自分で勉強できるようにお勧めの映画を教えてくださいました。

どの授業のクラスメイトもまじめでフレンドリーだったので、毎日楽しく学校に通うことができました。学校内は母国語禁止のルールがありましたが、学校外に出てからも日本語や同じ国籍同士の言語を使わずに英語だけで話したので、とてもよいクラスメイトに恵まれたと思いました。英語を学ぶのによい環境に恵まれてとてもよかったです。



morning クラスメイト



afternoon クラスメイト

3. Greystone College

語学学校の先生に薦められて、放課後の16:20~17:30に付属専門学校のGreystone Collegeに通いました。クラスメイトの国籍は、トルコ、メキシコ、コロンビア、韓国、台湾、ブラジル、サウジアラビア、タイ、スイスでした。語学学校では日本人と韓国人が割合的に多かったですが、このカレッジには私以外の日本人はおらず、韓国人も一人しかいませんでした。授業はCommunicationが中心の授業で、

単語やコロケーションを学びました。授業内では単語を記憶しやすいように工夫されたゲームを行いながらコミュニケーションの練習をしました。毎日放課後に通うのは大変でしたが、クラスメイトが「最後まで頑張っていこう」といい続けてくれたおかげで最後まで毎日行くことができました。授業を一日でも休むと certificate は貰えないので、最終日には達成感を感じました。語学学校では会わないようないろいろな学生と交流でき、とてもよい勉強になりました。

4. ホームステイ

語学学校のクラスメイトと英語を話す練習はできてもネイティブスピーカーと話す機会はなかなかないため、よりネイティブと会話ができる機会を増やすためにホームステイを選びました。

ホームステイ先は学校から電車とバスを乗り継いで約1時間かかるリッチモンド市にあり、ホストファミリーは6人家族でした。周りは住宅街で自然も多く、時々タヌキも見かけました。ホストマザーは料理上手で毎日おいしい食事を用意してくれました。ファーザーとマザーはポルトガルから移民してきた方だったので、食事はポルトガルの料理が多かったです。

ステイ中はファーザーの誕生日があり、たくさんの方がバースデーパーティーに来ました。パーティーは2回行われ、25人の人が来ました。日本では考えられませんが、バースデーパーティーはこれが普通なようで、とても驚きました。いろいろな人に出会い、あるおじさんからは「コミュニケーションの大切さ」を教えられました。また、ポルトガルでは父の日は3月19日なので家族全員でレストランに行き食事を取りました。食事の後にはダンスパーティーが始まり、私もファーザーとダンスをしました。私にとって初めての経験でとても恥ずかしかったのですが、よい思い出になりました。レストランはポルトガル人しかいなかったのでも周りのお客さんは私がいることに戸惑っていた様子でしたが、話しかけてくれたりして周りの方たちの暖かさを感じました。一ヶ月間このファミリーの下で過ごせてとてもよかったです。



breakfast

5. その他

週末にはカナダのブリティッシュコロンビア大学（UBC）に個人的に興味があったので見学に行きました。キャンパスはとても広く、バスで移動するほどでした。しかし、行った日は土曜日だったので学生はあまり多くなく、地元の人たちがたくさんいました。博物館がとても多く、鯨の博物館と地質学の展示などを見ました。また、薬学部の建物もあったので見てきました。



UBC pharmaceutical sciences



展示されていたもの



薬用植物などの説明

また、カナダの薬局も見てきました。薬局では薬剤師さんが何名かカウンターにおり、薬を処方していました。忙しそうだったのであまりお話しはできませんでした。



カナダの薬剤師さんと

6. 終わりに

この国際交流基金助成事業により、大変貴重な経験をさせて頂きました。研修当初は英語を話すことに壁を感じていた私でしたが、一ヶ月の研修でより英語の楽しさを感じましたし、壁を取り除けました。もっと英語が話せれば世界の人たちと意見を交わせるのに、と悔しさも感じました。また、たくさんの人たちに出会い、コミュニケーションの大切さを学ぶとともに、国の文化、日本の良さ、そしていかに自分が世界を知らないかを思い知らされました。私よりも年下の学生でも様々なことを考えて行動していましたし、自分の意見をしっかり持ち自信を持って発言している姿を見て圧倒されました。この語学研修では英語を学ぶだけでなく、様々な事を考えさせられ、刺激を受け、自分を見つめ直す機会にもなりました。この経験をしっかり今後になかしていきたいと思います。このようなかけがえのない経験を積むことができたのも、国際交流基金のおかげです。ありがとうございました。